

2016 年 4 月 27 日  
マツダ株式会社

## 2016 年 3 月期 決算発表 主な質疑応答

### 1. 2016 年 3 月期の実績について総括してほしい。

グローバル販売台数は、対前年 10%増の 153 万 4 千台と過去最高の販売実績となりました。これは、CX-3、新型 MX-5/ロードスターなど新型車のグローバル導入が進んだことに加え、Mazda6/アテンザ、CX-5 など商品改良モデルの好調な販売によるものです。地域別でもすべての地域において、前年を上回る販売を達成しました。

財務実績は、出荷台数の増加や「モノ造り革新」による継続的なコスト改善等により、営業利益は 2,268 億円と、対前年で 239 億円の改善となりました。当期純利益は 1,344 億円と、対前年で 244 億円の悪化となりましたが、これは、当企業グループが製造・販売する製品の一部に使用した特定のエアバックに関連する品質関連費用 407 億円を特別損失として計上したこと、及び、欠損解消に伴い繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、長期繰延税金資産を計上したことによるものです。

商品領域では、新型 MX-5/ロードスターが「ワールド・カー・オブ・ザ・イヤー」と「ワールド・カー・デザイン・オブ・ザ・イヤー」をダブル受賞するなど、「SKYACTIV 技術」と「魂動デザイン」を採用した商品は国内外で高い評価を頂いております。

厳しい外部環境への対応と将来の成長を確実にするため、「構造改革プラン」(2013 年 3 月期～2016 年 3 月期)を策定し、「SKYACTIV 技術」を梃子とした構造改革を強力に推進してまいりました。「構造改革プラン」の最終年度である 2016 年 3 月期において、商品・販売・生産・アライアンスなどの各領域における主要施策の着実な実行により、事業構造の転換は大きく進捗しました。しかし、主要施策の各領域で依然として更なる改善の余地があることから、次期中期経営計画「構造改革ステージ2」で取り組みを一層強化してまいります。

### 2. 2017 年 3 月期は減益の見通しだが、主な要因は何か。

新型 CX-9 等の新商品や商品改良モデルの投入や、「モノ造り革新」による新商品のコスト改善や海外工場でのコスト育成等による増益要因を、現在円高基調で推移している為替による減益要因(810)億円が打消し、2017 年 3 月期は対前期比減益の見通しとなっております。

為替は大幅悪化しますが、収益性を重視した仕向地配分や価格アクション、将来に向けた成長投資以外の管理可能な費用の抑制など、開発/生産/販売/財務の各領域で対応努力をすすめてまいります。

**3. 2016年3月期が+13.7万台の大幅な販売増に対し、2017年3期は+1.6万台と台数の上乗せ幅が減少している理由はなにか。**

新型 CX-9 などの新商品の投入や、Mazda6/アテンザや CX-5 など好評いただいている商品改良モデルを他のラインアップにも展開し、引き続き台数成長を目指します。

昨年に比べ台数の上乗せ幅が少ないのは、特にクロスオーバー系車種の生産能力の拡大が需要の増加ピッチに追いついていないことに加え、今期に導入する新型車の生産準備により生産設備の稼働が高まらないこと等によるものです。

クロスオーバー系車種の需要の高まりに適切に対応するため、クロスオーバー系車種と乗用車などの車種間の生産フレキシビリティを拡大させ、約 10 万台の生産・販売拡大を図り、次期中期経営計画「構造改革ステージ2」最終年度 2019 年 3 月期の販売台数目標である 165 万台の達成に向けて取り組んでまいります。

以上